

## 大磯町旧吉田茂邸再建基金に伴う町内説明会計画書（案）

- 1 目的 大磯町旧吉田茂邸再建基金募集協力事業の一環として、旧吉田茂邸再建検討委員会との共同で、全町民（24 地区）を対象とした旧吉田茂邸再建に向けての説明会を開催することにより、地域住民の再建に対する理解と協力を深めることを目的とする。
- 2 協力団体等（予定） 大磯町旧吉田茂邸再建検討委員会
- 3 実施日程 8 月以降を予定（地区及び関係者と協議のうえ決定）
- 4 実施場所 各地区の会館等
- 5 内 容
  - 1 あいさつ
  - 2 旧吉田茂邸再建に向けた取組及び再建状況についての説明
  - 3 コンシェルジュ神奈川「思い出の吉田茂邸」の放映
  - 4 再建に対する要望の署名について
  - 5 その他（質疑応答）
- 6 周知方法 回覧等により周知を図る。

## 旧吉田茂邸再建に向けた取組について

- 平成 21 年 3 月 22 日 旧吉田茂邸の本邸が焼失しました。



- 旧吉田茂邸の再建をめざし検討組織を設けました。

### 主な検討組織

#### 【神奈川県】

- ・ 旧吉田茂邸再建検討会議（4回開催）  
再建のコンセプト、再建・復元のレベル、利活用計画、事業スキーム、整備主体等を検討するため、県庁に事務局を設け、県職員を中心に構成しており、大磯町からは政策課長が委員として参加している。
- ・ 旧吉田茂邸再建検討委員会（2回開催）  
公園整備計画に基づく旧吉田茂邸再建計画を専門的見地から検討するため、県平塚土木事務所に事務局を設け、有識者を中心に構成しており、大磯町からは政策課長が委員として参加していた。

#### 【大磯町】

- ・ 旧吉田茂邸再建プロジェクト（7回開催）  
旧吉田茂邸の再建に向けた方策について、事務的な検討を行うため、大磯町に事務局を設け、大磯町職員で構成している。
- ・ 旧吉田茂邸再建検討委員会（7回開催）  
旧吉田茂邸の再建に向けた方策について、町民、有識者からの意見を聞くため、大磯町に事務局を設け、町民で構成している。
- ・ 旧吉田茂邸再建特別委員会（6回開催）  
町民の意見を集約して町議会ができることを検討するため、大磯町議会議員で構成していた。

- 平成 21 年 7 月 1 日 大磯町旧吉田茂邸再建基金条例が可決し、募金活動を開始しました。

募金活動の状況  $\left[ \begin{array}{l} \text{募金箱設置、パンフレット配布、街頭募金活動} \\ \text{パンフレット配架依頼、協力依頼、広報掲載} \end{array} \right]$

寄附金の状況 平成 22 年 8 月 10 日現在 (831 件 45,102,904 円)

- 平成 21 年 7 月 9 日 大磯町長から神奈川県知事宛てに「旧吉田茂邸の再建に向けた要望書」を提出しました。

(要望書の主な記載内容)

- ・ 吉田茂元首相は、サンフランシスコ対日講和条約の締結を実現し、日本の国際社会への復帰を果たし、戦後における日本社会のあり方を方向づけて、今日の日本の繁栄の礎を築いた人物（最高位の勲章「大勲位菊花章頸飾」受賞者、戦後唯一の国葬が行われた人物）
- ・ 地元大磯町においても、小学校や中学校など地域との交流を深め、町民からも“吉田さん”と呼ばれて慕われていた人物（大磯町名誉町民）
- ・ 旧吉田茂邸は、政界引退後も多くの政財界人が訪れ、1979 年（昭和 54 年）には、大平首相とカーター大統領の日米首脳会談が開かれるなど、日本の戦後政治史の重要な場面を目撃してきた貴重な歴史的空間であることから、吉田茂元首相が過ごした空間を身近に体感し、戦前戦後の日本が歩んだ歴史や近代政治を学べる教育の拠点として、可能な限り焼失前の姿を再現できるような再建を県が主体となって取り組んでいただきたい。
- ・ 大磯町が建物の維持管理を担っていききたい。
- ・ 大磯町が全国に旧吉田茂邸の再建費用に充てるための寄附金を呼びかけていく。

- 平成 21 年 7 月 28 日 「大磯都市計画公園第 7・4・1 号大磯城山公園の変更について」の都市計画決定が告示され、旧吉田茂邸の敷地の大部分が県立大磯城山公園の拡大区域として整備されることになりました。

- 平成 21 年 12 月 21 日 旧吉田茂邸の敷地の大部分を神奈川県が購入する契約が締結されました。

- 平成 22 年 2 月 5 日 「吉田茂と大磯の歴史的魅力を考えるシンポジウム」を開催しました。

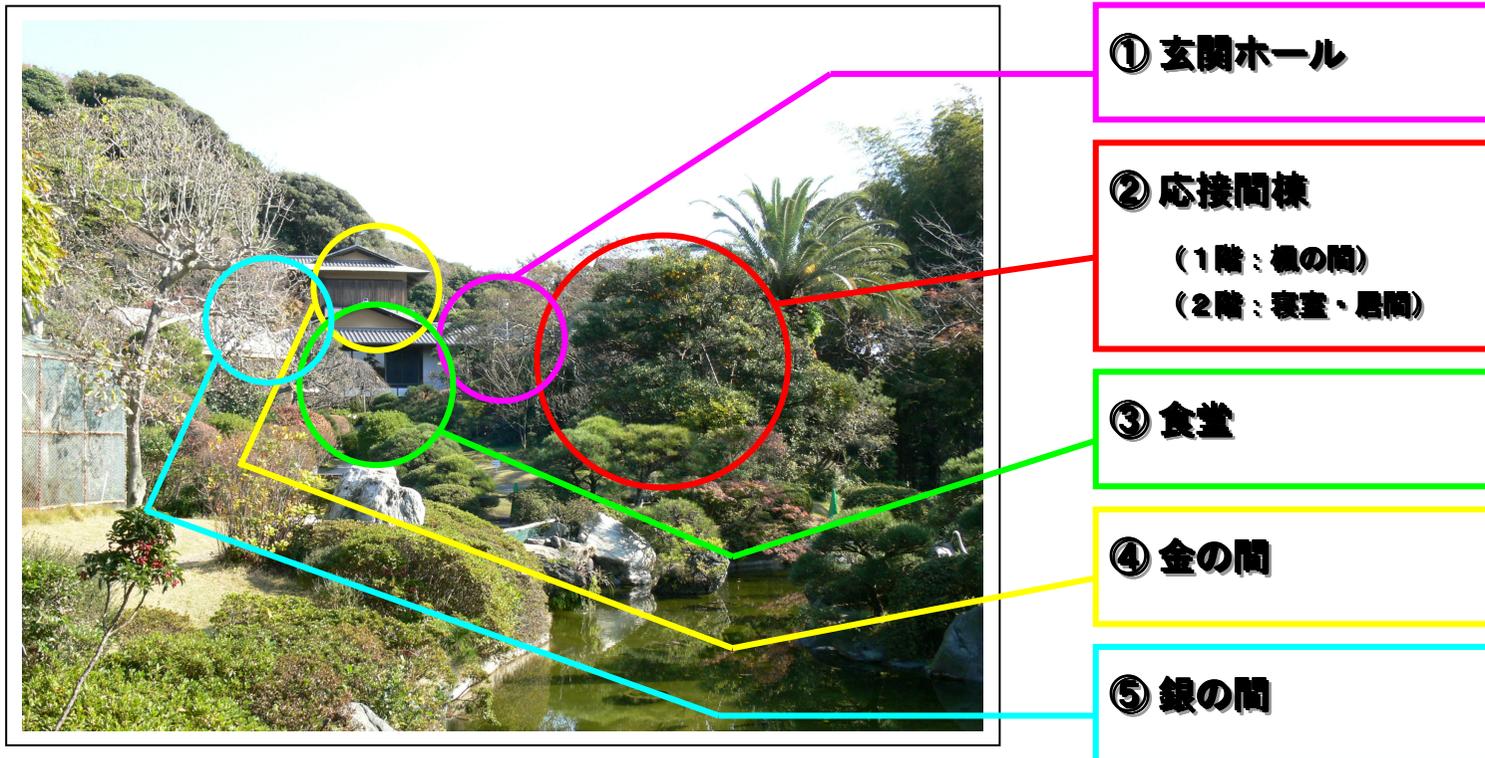
シンポジウムの知事のあいさつの中で、旧吉田茂邸の再建にあたって重視している視点として、「建物の再建にあたりましては、大磯丘陵の照葉樹や庭園と一体となった景観イメージの再現を重視して今後も検討を進めてまいりたいと考えております。」といった発言がありました。



## 旧吉田茂邸の再建にあたって重視している視点

● 「吉田茂と大磯の歴史的魅力を考えるシンポジウム」知事発言一部抜粋

建物の再建にあたりましては、大磯丘陵の照葉樹や庭園と一体となった景観イメージの再現を重視して今後も検討を進めてまいりたいと考えております。



## ① 玄関ホール

- ◆ 焼失前の増改築棟の玄関まわりは、吉田五十八が改修したと思われる。

※ 吉田五十八は、昭和の戦前に多くの建築家が西欧の近代建築を進める中で、独自に日本の伝統的数奇屋建築の近代化に取り組み、近代数奇屋を確立した建築家。

(主な作品)

ローマ日本文化会館、外務省飯倉公館、在米日本国大使公邸（※設計のみ）、日本芸術会館、五島美術館、大和文華館、玉堂美術館、成田山新勝寺（大本堂）、中宮寺本堂、料亭つるや、料亭新喜楽、歌舞伎座、明治座、料亭吉兆、大阪ロイヤルホテル、日本万国博松下館、小林古径邸、川合玉堂邸（画伯）、山口蓬春邸、岩波茂雄別邸、吉田五十八邸、中村勘三郎邸、梅原龍三郎邸、水谷八重子邸、吉田茂邸、古屋信子邸、猪股猛邸、岸信介邸

- ◆ 大阪城の橋の欄干やイタリア大使から寄贈されたオオシャコ貝が飾られていた。



## ② 応接間棟

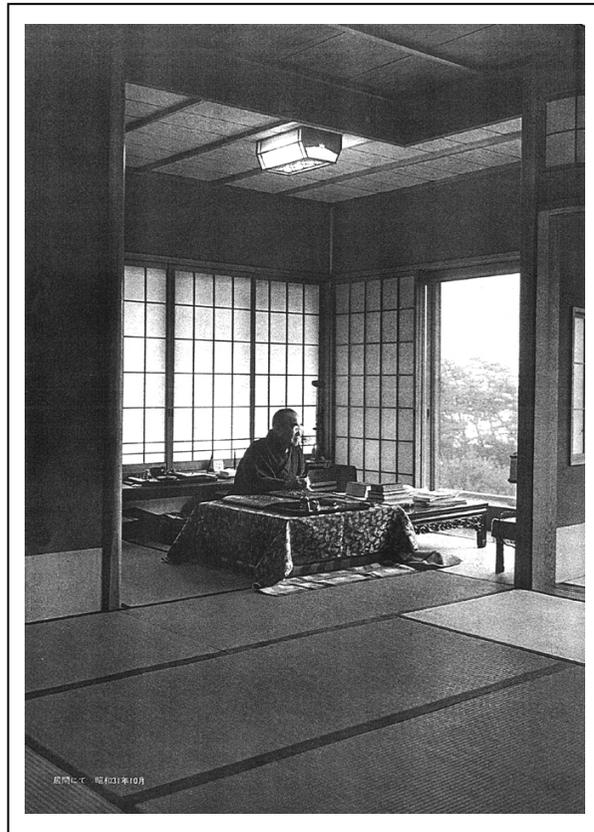
### 1階（楓の間）

- ◆ 畳 40 畳分の洋間。天井は船底形。
- ◆ 焼失前の天井梁は長さ5間の北山杉で、京都の5つの山を探して持ってきた。当時1本 100万円～200万円と言われている。
- ◆ 1979年（昭和54年）6月26日には、大平首相とカーター大統領の日米首脳会談がこの部屋で開催された。
- ◆ 大理石の暖炉、壁のガラスケースには、アデナウアー元西独首相、ジョンソン元米大統領、ダレス元米国務長官、カーター元米大統領の署名入り写真が飾られていた。
- ◆ 焼失前の床の間は、赤松の一枚板で、インドのネール首相から贈られた孔雀の剥製が飾られており、幕末の有名な儒学者佐藤一斎の掛け軸が掛けられていた。



## 2階（寝室・居間）

- ◆ 吉田茂が首相在任中に執務室として使用された。
- ◆ 襖には真珠の粉末入りの襖紙が使われ、引手に三月形の金具を使っていた。
- ◆ 奥の浴室は、昔、大磯の浜辺で良く見られた漁師の舟の形をした檜の一木を削り抜いた浴槽を特別注文で造り、床は板敷にしていた。
- ◆ 書斎コーナーのガラス棚の一番下の引戸内には、ダイヤルのない官邸直結の黒電話が備えられていた。



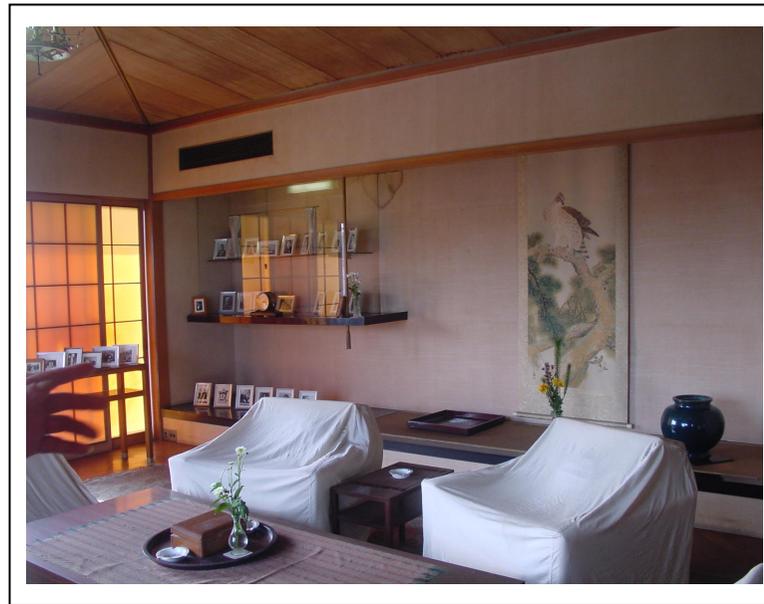
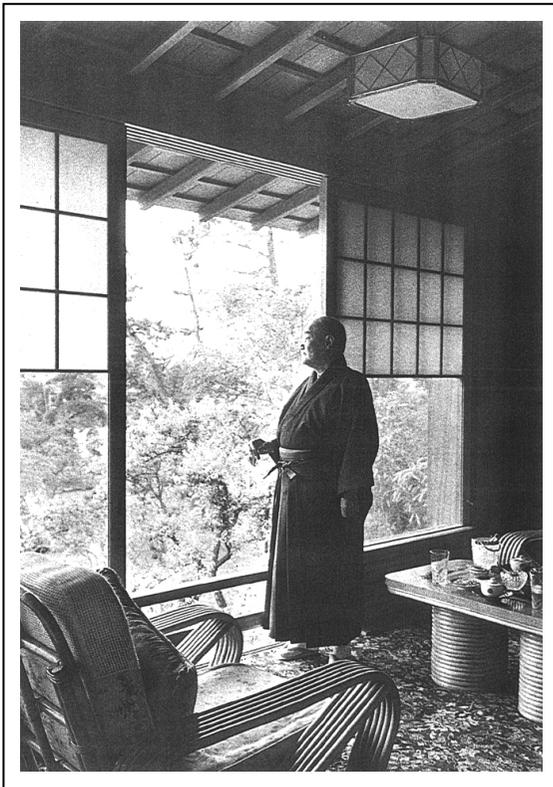
### ③ 食堂

- ◆ 吉田五十八の設計で、ローズルームと呼ばれていた。
- ◆ 吉田茂は家族とは週に数回しか会わず、書生と共に生活しており、ここで食事をしていた。
- ◆ 北側の窓から見える木立の奥から滝が流れるようになっており、お気に入りの来客の時には滝を流した。
- ◆ 西側のガラス窓の引戸は壁の中に収納できる設計で全開でき、ここからの富士山の眺望は素晴らしい。
- ◆ 焼失前の壁紙には仔羊のなめし革 231 枚がパネル状に張られていた。当時 1 枚 1 万円と言われる高価な仕様。
- ◆ 蒋介石から寄贈された国宝級の中国製衝立があり、ガラスの内側には山水が彫られ色彩が施されていた。



#### ④ 金の間

- ◆ 吉田五十八の設計で、当時、アイゼンハワー米国大統領の来日での利用を目的に増築された部屋だが、実際にアイゼンハワー米国大統領が利用することはなかった。
- ◆ 1979年（昭和54年）には、この部屋で大平首相とカーター大統領の日米首脳会談が予定されたが、見晴らしが良く狙撃に対する安全が確保できないという理由で、直前で「楓の間」に変更された。



## ⑤ 銀の間

- ◆ 吉田五十八の設計で、吉田茂が晩年を過ごし息をひきとった部屋。
- ◆ 焼失前の天井にはレース紙と銀色の布が使われていた。



# 「大磯町旧吉田茂邸再建基金」に ご協力をお願いします

大磯町では、県立公園として整備するなか、焼失してしまいました旧吉田茂邸について、再建を目指して事業を進めております。

旧吉田茂邸は、戦後日本の復興に大きな功績を残された故吉田茂元首相の本宅であり、総理在任中はもとより、政界引退後も多くの政財界人が訪れるなど、重要な役割を果たしてきた戦後政治史の舞台です。

こうした歴史的価値のある貴重な空間を再現することは、今日の日本が存在することを可能とした歴史的意義を後世に伝え、戦前戦後の日本が歩んだ歴史や近代政治を学ぶ教育の拠点となるばかりでなく、数奇屋建築を独自に近代化した建築家であり、東京歌舞伎座の修復も手がけた吉田五十八氏設計の本邸部分を忠実に再現することによって、観光や文化の交流拠点として意義のあるものとなるため、大磯町では、再建に向けた呼びかけを全国に向けて発信しています。

再建に向けては、建築に伴う法律の制限や再建費用をどのくらい用意できるかによって、忠実に再現できる規模や形状などが変わってくると思われませんが、大磯町としては、歴史をとどめる重要な部分については、完全に焼失前の姿に再現できるよう取り組んでいきたいと考えていますので、皆さまのご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

神奈川県 大磯町



この線で切り取ってください。 ※払込取扱票の必要事項は、はっきりと記入してください。

07 横浜		払込取扱票 公				払込料金 加入者負担			
口座記号番号						金額			
00240-9-960432									
加入者名 大磯町会計管理者						備考			
ご依頼人 大磯町旧吉田茂邸再建基金（寄附金） チラシの裏面を参照して、該当項目の□にチェックしてください。 ① 氏名等について公表してよい項目 <input type="checkbox"/> 住所（市町村名まで）、 <input type="checkbox"/> 氏名、 <input type="checkbox"/> 寄附金額 ② 寄附金受領証明書の交付の可否 <input type="checkbox"/> 要、 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> メッセージ（ご自分でお書きください） おところ（郵便番号） （ふりがな）おなまえ （電話番号）- -						日附印 様			

裏面の注意事項をお読みください。（ゆうちょ銀行）（承認番号 横第2793号）

これより下部には何も記入しないでください。

切り取らないでお出してください。

振替払込請求書兼受領証 公									
口座記号番号						払込料金 加入者負担			
00240-9-960432									
加入者名 大磯町会計管理者						備考			
金額						千 百 十 万 千 百 十 円			
ご依頼人						様			
備考						日 附 印			

この線で切り取ってください。

この受領証は、大切に保管してください。

## 寄附金について

大磯町旧吉田茂邸再建基金へのご寄附は、申込書（おもて面下段の払込取扱票）に必要事項をご記入のうえ、お近くのゆうちょ銀行（郵便局）でお申し込みください。（払込料金はかかりません）

お寄せいただいた寄附金につきましては、旧吉田茂邸の再建に要する経費や、調度品を再建後の建物に配置するために活用させていただきます。

### 払込取扱票のチェック項目について

#### ①氏名等について公表してよい項目

大磯町では、ご寄附をいただいた方を対象に、町広報等でご住所（市町村名まで）・お名前・金額をご紹介しますので、公表してよい項目につきましてチェックをお願いします。なお、チェックがない場合は公表はいたしません。

#### ②寄附金受領証明書の交付の要否

「大磯町旧吉田茂邸再建基金」への寄附金につきましては、所得税及び住民税（個人市町村・都道府県）の寄附金控除制度（ふるさと納税）の対象となります。

寄附をされた方が寄附金控除を受けるためには、お住まいの住所地を所管する税務署に確定申告を行う必要があります。その際に大磯町が発行する寄附金受領証明書が必要となりますので、控除を受ける方につきましては「要」に、受けない方につきましては「否」にチェックをお願いします。なお、チェックがない場合は寄附金受領証明書を交付いたします。

#### ※寄附金控除制度（ふるさと納税）

地方公共団体に寄附された金額のうち、年間寄附金総額が5千円をこえる部分について、所得税及び住民税（個人市町村・都道府県）の控除の対象となります。

※ご寄附をいただいた方を対象に特典をご用意しております。詳しくは町のホームページ又は下記担当課までご確認ください。

〒255-8555 神奈川県中郡大磯町東小磯183

大磯町役場 都市計画課 電話 0463-61-4100 FAX 0463-61-1991

ホームページアドレス <http://www.town.oiso.kanagawa.jp>

#### （ご注意）

- ・この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
- ・この用紙は、ゆうちょ銀行又は郵便局の払込機能付きATMでもご利用いただけます。
- ・この払込書を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証を必ずお受け取りください。
- ・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。
- ・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

この場所には、何も記載しないでください。



## 吉田茂 1878-1967

明治11年(1878)自由党员・竹内綱の子として生まれ、幼少期に貿易商吉田健三の養子となる。東京帝国大学卒業後外務省に入り、奉天総領事・駐伊・駐英大使等を歴任。太平洋戦争末期には近衛文麿元首相らと和平工作を企て、憲兵隊に拘置された。

終戦後は東久邇宮・幣原両内閣の外相となる。昭和21年(1946)公職追放となった鳩山一郎の後任として自由党総裁に就任し、日本進歩党との連立のもと、第一次吉田内閣を組閣。日本国憲法の制定など、戦後の日本民主化の礎を築いた。昭和26年(1951)第三次吉田内閣のとき、サンフランシスコ講和条約・日米安全保障条約に調印。池田勇人や佐藤栄作を代表とする官僚出身の国会議員を重用し、後の保守本流の形成へと繋がった。政界引退後は大磯に隠棲するも、その後も政界に絶大な影響力を誇った。昭和42年(1967)大磯の自邸で亡くなり、戦後初となる国葬が執り行われた。享年89歳。

## 吉田茂と戦後の日本

昭和8年(1933)、日本は国際連盟から脱退し、国際的に孤立する中、ドイツと急速に接近します。戦前より親英米派であった外務省出身の吉田茂はこの状況を危惧し、駐英大使として日独伊防共協定に断固反対し、対英米戦争に反対の立場を貫きました。その後、外務省を退官した吉田は、対米関係の悪化に憂慮し、和平工作に奔走します。第二次大戦後の昭和20年(1945)、吉田は外相に就任し、GHQとの折衝にあたりました。昭和21年(1946)には第一次吉田内閣を発足し、新憲法を公布するなど、GHQ最高司令官マッカーサーと共に戦後の日本の復興に乗り出します。昭和26年(1951)、第三次吉田内閣では、サンフランシスコ講和条約を締結し、7年もの長きにわたる占領を終結させ、日本を独立に導き、日本は国際社会への復帰を遂げたのです。

敗戦国・日本を立ち直らせ、現在の日本の発展の礎を築き上げた吉田茂は、戦後を代表する政治家、「大磯の賢人」として国内外から高く評価されています。

## 旧吉田邸

旧吉田邸は、吉田茂の養父・吉田健三が明治17年(1884)頃に大磯の地に別邸を建てたのが始まりで、その後吉田茂がこの邸宅を自邸として使用するようになりました。

吉田は欧米旅行にあたり、ニューヨーク郊外のロックフェラー世の別荘やロンドン郊外のケズウィック氏の邸宅などに宿泊する機会があり、その歓待ぶりに感激したことや、米・アイゼンハワー大統領や英・マクミラン首相の訪日の予定があったことから、外国貴賓が宿泊できる迎賓館の新築を思い立ち、東京歌舞伎座設計者でもある建築家・吉田五十八に設計を依頼し、京都の宮大工を呼んで豪壮な総檜造りの数寄屋風和風建築を完成させました。「吉田御殿」と呼ばれたこの邸宅には、吉田の政界引退後も政財界の要人たちが「大磯詣」と称して足繁く通ったことが知られています。

昭和54年(1979)には当時の大平正芳首相とカーター大統領がこの吉田邸で日米首脳会談を行っています。邸内にはカーターをはじめ、ジョンソン大統領やダレス国務長官の署名入り写真や蒋介石から贈られた衝立など、政治史を彩る貴重な資料が数多く残されていましたが、平成21年(2009)3月22日、母屋を全焼する火災により灰燼に帰してしまいました。幸い、敷地内にある明治の元勳と吉田を祀る七賢堂と講和条約締結の地・サンフランシスコを望む吉田の銅像や講和条約締結記念に建てられた兜門は消失を免れました。

歴史を物語る建造物であり、大磯町の財産でもあった旧吉田邸の再建に向けて、大磯町では今後、多岐にわたる取り組みを進めていきたいと考えております。

制作・編集

# 大磯町郷土資料館

〒255-0005

神奈川県中郡大磯町西小磯446-1

電話 0463(61)4700

<http://www.oiso.town.kanagawa.jp/shisetsu/shiryokan/index.html>

<http://scn-net.easymyweb.jp/member/oisomuseum/>



大磯町郷土資料館



# 「大磯町旧吉田邸再建基金」 ご協力ありがとうございます

## ■旧吉田茂邸 沿革

1884年(明治17年)ころ	養父・吉田健三が現在地(神奈川県中郡大磯町西小磯)に別荘を建てる
1951年(昭和26年)～1961年(昭和36年)	総理大臣として外国貴賓を招くため、元芸術院会員吉田五十八氏の設計で京都より宮大工を招き増築
～1967年(昭和42年)	現職の総理大臣を始め多くの政財界人が出入りする(「大磯参り」と言われ、当時の大磯は吉田の代名詞と称された)
1969年(昭和44年)	西武鉄道株式会社の所有となる
1979年(昭和54年)	大平正芳総理・カーター米大統領による日米首脳会談の会場となる



吉田茂 1878-1967  
本邸をバックに(昭和41年) (撮影/吉岡専造氏)

## ■保存・再建に向けて

2005年(平成17年)	所有者が公的機関での買い取りを要望 11月、神奈川県と大磯町連名で、国による整備活用の要望書を安倍晋三内閣官房長官に提出
2006年(平成18年)	町議会や区長連絡協議会等が町内外から5万人を超える署名を集め、小泉純一郎総理にあて保存の要望書を提出 9月、神奈川県が都市公園として隣接する県立大磯城山公園と一体整備の方針を固める
2008年(平成20年) 2月7日	三好正則大磯町長が松沢成文神奈川県知事に「旧吉田茂邸建物建築利用に係る提案書」を提出
2009年(平成21年) 3月22日	原因不明の出火により本邸焼失
7月1日	「大磯町旧吉田茂邸再建基金」を設置し募金活動を開始。
7月9日	町民による再建検討委員会や町議会特別委員会を中心にまとめられた「旧吉田茂邸の再建に向けた要望書」を三好町長が松沢県知事に提出し、再建への本格的な取り組みが始まる
12月21日	県議会12月定例会において、大磯城山公園の公園整備事業用地(旧吉田茂邸)の取得にかかる提案が可決される

## ■焼失前の建物

数寄屋風和風建築で延床面積約300坪、総檜造の木造2階建

楓の間(応接間)は北山杉の梁、赤松一枚板の床の間、掛け軸など

ローズルーム(ダイニングルーム)には羊のなめし皮製の壁

蘭の間(温室)にはブーゲンビリア、ハイビスカスなど20種類の熱帯植物(温室は現存)

# 旧吉田茂邸写真



本邸正面  
撮影日:2007年11月27日



2階居間  
(炬燵の上に官邸直通黒電話)



1階応接間  
(1979年日米首脳会談会場)



1階ダイニングルーム  
(奥に蒋介石寄贈の衝立)



炎に包まれる本邸  
撮影日:2009年3月22日



焼け落ちた本邸  
撮影日:2009年4月3日

# 本邸焼失前の地図

所在地:神奈川県中郡大磯町西小磯418  
敷地面積:約33,000㎡(10,000坪)  
建物構造:木造二階建 総檜造  
延板面積:約1,000㎡(303坪)

